

*※東大和市ホームページに教育長日記「青い空に浮かぶ白い雲」を掲載しています。ぜひご覧ください。

教育長日記（平成30年4月3日）

青い空に浮かぶ 白い雲 135

—教育長の教育経営方針 キーワードは「連携・協働」—

東大和市教育委員会 教育長 真如昌美

平成30年度 教育長の学校教育経営方針



平成29年3月に新しい学習指導要領の告示があり、本年度からは、小学校は平成32年度（2020年度）、中学校は平成33年度（2021年度）の新学習指導要領完全実施に向けた先行実施が始まります。

新学習指導要領の前文から 『社会に開かれた教育課程の実現』／『家庭、地域と共にある学校づくり』

「これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのように資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。」と示されています。

また、「児童や地域の実態や課題を捉え、家庭や地域社会と協力して、学習指導要領を踏まえた教育活動の更なる充実を図っていくことも重要である。

児童が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から児童や学校に関わるすべての大人に期待される役割である。」

と記されているとおり、「家庭、地域と共にある学校づくり」の必要性が強調されています。

東大和市の学校教育について

『学校は地域の財産である』／『学校教育の実践者は校長である』

東大和市の学校教育は、家庭、地域の方々の教育に対する関心や期待が高まるなかで、知育、徳育、体育バランスのとれた教育が展開され成果を上げています。

このことは、校長の示す学校経営方針が教職員はもとより家庭や地域にも開かれ浸透し、学校、家庭、地域、そして教育委員会が一丸となって東大和市の教育を進めてきたその成果です。

社会に開かれた教育課程を目指す中では、保護者や地域との連携や協力の場面も多くなります。学校組織のあり方や職層に応じた責任ある対応、一般社会のルールや常識についてもしっかりと身に付けていきましょう。

平成30年度東大和市立小中学校の校長は、市内における学校間異動はあっても、昨年度と同じメンバーで学校経営に臨みます。平成30年、変化の急な時代、新鮮さと先送りしない姿勢で進みます。

I 生きる力の育成 —次代を担う児童・生徒の知・徳・体をバランスよく育てること—

- ・社会でたくましく生き抜いていくために必要な「生きる力」を家庭・地域と共に育成する。
- ・創意・工夫を活かした特色ある教育活動を展開する。
- ・一人一人に基礎的・基本的な知識を習得させ、思考力、判断力、表現力、その他の能力を育む。
- ・自尊感情や自己肯定感を引き出し、東大和市の学校で学ぶことに「誇り」をもたせる。
- ・教師は育成のプロであることを自覚し、その責任を果たす。
 - ◇ 知 育 : 小学校期の基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させる。
中学校期では、小学校で習得した力を活用し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、その他の能力をさらに磨く。
 - ◇ 徳 育 : 家庭、学校、地域とともに、自他の生命を尊重し、規律ある生活を送ることができ、国際社会に生きる日本人としての自覚を身につけさせる。
 - ◇ 体育・健康 : 家庭や地域との連携を図りながら、食育の推進や体力の向上に向けての指導の充実を図る。

II 学校との連携・協働—教育委員会と学校とが知恵を出し合い協働・一丸となって教育改革を進めること—

- ・東大和市教育委員会の教育目標を達成していくために、教育委員会と学校とが互いに理解しあい、連携・協働しながら一丸となって教育課題の解決に取り組む。
 - ◇ 校長は、学校経営方針を具体的かつ積極的に教職員、保護者・地域の方に周知し、校長が目指す学校づくりを共有する中で、職員、保護者・地域が互いに信頼し合いまとまりある組織として学校を機能させていく。
 - ◇ 職層ごとの責任を明確にし、学校組織の機能を高める。
 - ◇ 教育委員会は、校長の目指す学校づくりを受け止め、互いに知恵を出し合い共有しながら、東大和市の教育の充実・発展にむけ取り組む。
 - ◇ 市長が繰り返し提唱する笑顔のある明るい挨拶と、爽やかなおもてなしのできる学校づくりを広げていく。

III 社会との連携・協働 —「学校」は地域の財産であることを認識して教育を進めること—

- ・子どもたちが「次代を担う大切な地域の財産」であることを認識し、学校と地域とが連携・協力して子どもたちを育成していくことが大切である。学校は「地域の教育に対する熱い思い」により開校に至ったものである。その思いや願いに応えながら、「家庭、地域と共にある学校づくり」「誇りある学校づくり」を進める。
 - ◇ 学力は、次代を担う児童生徒が、今後、社会に出て自らの道を切り拓いていく上で必要となる基本的な学力、そして「生きる力」である。教育委員会と学校はその願いに応えなければならない。
学校教育の成果を生み出すためには、日常の生活習慣や社会的自立など、家庭や地域の教育力も求められる。日頃から学校と家庭・地域とが連携・協力し「地域の誇りある学校づくり」を進めていく。